

「小松商工会議所景気見通し調査」

結果報告書

調査期間 令和2年9月

小松商工会議所

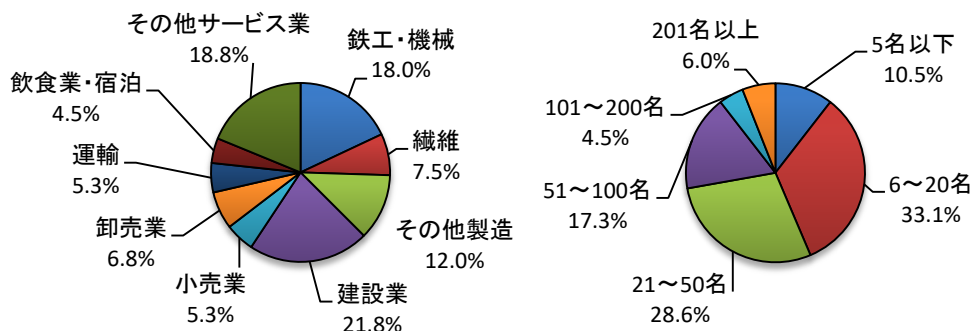
中小企業相談所

【調査対象】

小松商工会議所 議員・評議員企業 223社

回収率 133企業 (回収率 59.6%)

業種 / 従業員数		5名以下	6～20名	21～50名	51～100名	101～200名	201名以上	合計
製造業	鉄工・機械		3	8	7	3	3	24
	繊維	2	3	3	2			10
	その他製造	2	3	3	4	1	3	16
建設業		1	16	10	2			29
小売業			3	1	2	1		7
卸売業		1	4	3		1		9
サービス業	運輸			3	3		1	7
	飲食業・宿泊	2	1	2	1			6
	その他サービス業	6	11	5	2		1	25
合計		14	44	38	23	6	8	133



景況・業況の動向

【主要な表現について】

※業況判断 …… 調査対象企業が自らの業績に下した判断

※DI 値 ……DI (デフュージョン・インデックス)とは企業の景況感を示す指数
「好転」の割合から「悪化」の割合を差し引いた値(無回答を除く)

※前 期……令和2年度第1四半期(令和2年4月～6月)

今 期……令和2年度第2四半期(令和2年7月～9月、但し9月は見込み)

来 期……令和2年度第3四半期(令和2年10月～12月)

【各項目別のDI値の意味について】

- (1)景 況 感……………DI 値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。
- (2)売 上 高……………DI 値がプラスなら「増加」を、マイナスなら「減少」を表す。
- (3)売上単価……………DI 値がプラスなら「上昇」を、マイナスなら「低下」を表す。
- (4)資金繰り……………DI 値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。
- (5)採算性(経常利益)…DI 値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。

(1)-1 貴企業の景況感

(単位:社)

	鉄工・機械		繊維		その他製造		建設業		小売業		卸売業		サービス業	
	今期	来期	今期	来期	今期	来期	今期	来期	今期	来期	今期	来期	今期	来期
好調	2	8	3		5	5	2				2		1	2
不変	11	13	3	7	4	7	15	15	2	2		5	20	17
悪化	11	3	4	3	7	4	11	13	5	5	7	4	17	18
無回答							1	1						1
総計	24		10		16		29		7		9		38	

Q「景況・業況の動向」の項目における「景況感判断」に関する理由

【今期：好転の理由】

受注増（鉄工・機械）
コロナの反動（鉄工・機械）
新型コロナの影響と暖冬も加わって、第1四半期は激減、第2四半期に入って受注は持ち直しているが、弱含み（繊維）
加工場廃業による仮需がでている（繊維）
前期はコロナの影響が大きすぎた（その他製造）
コロナ感染影響で4月～6月よりは多少改善したが、前年比大幅減で不採算（その他製造）
受注量やや増加（その他製造）
コロナ禍の影響が少しずつおさまったのと、新規対策への効果（その他製造）
繁忙期である為（建設業）
季節的な売上の増加（卸売業）
少し取引が戻ってきた（卸売業）

【今期：不変の理由】

建機の生産量の減少（鉄工・機械）
コマツ減産の影響、ユーザー助成金受給の為に金曜休日が増加（鉄工・機械）
主力の観光バス受注減（鉄工・機械）
受注が右肩上がりになる要素が少ない（鉄工・機械）
受注状況・生産量に余り変化がないため（鉄工・機械）
業界全体が静か（鉄工・機械）
昨年10月より売上減少、以後この傾向続く（鉄工・機械）
低水準で推移（鉄工・機械）
受注高に大きな変動（鉄工・機械）
コロナウイルス要因でファッション(衣料)が動かない（繊維）
新型コロナウイルスにより、5月から自動車産業中心に受注が激減した。7月以降も回復の兆しは見えない（繊維）
前期が最悪だったので、それと比較しても大差なし（その他製造）
ずっと対前年比60%位の売上が続いている（その他製造）
アパート向けユニットバスの需要は微減傾向にあるが、コロナの影響は少ない（その他製造）
今年度については目途がついている（建設業）
春頃、発注者の計画見直しがあり保留した案件が動き始めた（建設業）
新型コロナウイルスによる直接的な影響は、現時点でそこまで重大ではないと感じられるため (建設業)

受注した物件を施工するまでに期間が掛かるので、不変が多い（建設業）
官公庁工事発注状況について特に変わりなし（建設業）
この時期、公共事業が多めに発注されたため（建設業）
コロナの影響が好転しない（小売業）
コロナウイルス感染症の拡大が続いているため（運輸）
コロナ禍による景況低迷は依然続いている（運輸）
物流量の増加の見込みなし（運輸）
第1四半期でも、過去最大の赤字を計上（運輸）
新型コロナウイルスが落ち着いていない（飲食業・宿泊）
コロナの影響のため（飲食業・宿泊）
現在、新たに事業展開している（その他サービス業）
業務の変更はない（その他サービス業）
官公需が中心のため（その他サービス業）
新型コロナウイルス感染症の影響で、航空便の減便・運休による旅客減少が続いている （その他サービス業）
変わる理由が見当たらない（その他サービス業）

【今期：悪化の理由】

客先の受注・生産減のため（鉄工・機械）
売上減少に伴う固定費率増加（鉄工・機械）
客先からの内示受注状況による（鉄工・機械）
主要客先の生産量によるもの（鉄工・機械）
米中貿易摩擦に加えて、東南アジア、ヨーロッパも悪い（鉄工・機械）
コロナ環境下で内需、輸出共に不振（繊維）
臨時休業も何日かあった（その他製造）
受注状況が悪化し、好転する見込みもない（その他製造）
コロナ禍により、大幅な受注減（その他製造）
コロナ禍の影響が見通せない（その他製造）
新幹線関連工事の収束による（建設業）
毎年4月に、公共工事も民間工事も完成を終え、仕事量は減速する（建設業）
競争が激しい（建設業）
売上高半減（建設業）
見通しが無い（建設業）
民需が減っている。設備投資の中止や延期が多い（建設業）
業界全体が悪い感じがする（小売業）
コロナで来店者数減少方向（小売業）
新型コロナウイルスの影響で売上減（小売業）
小松でのコロナ増加に伴い、卸売部門が売上減となったため（小売・卸売業）
ユーザー業界全てに回復感なし（卸売業）
コロナ禍の影響（卸売業）
仕事量が急落（運輸）
8月の売上減少は大きかった。9月に回復の見込みはない（運輸）
順調だったのに、やわたメディカルクラスターで9月キャンセル多数(5月より悪化)（飲食業・宿泊）
コロナ禍による（飲食業・宿泊）
来客数が少ない。各種会合やイベントが中止の為（飲食・宿泊）
お客様の業種にもよるが、買い控え感が強い（その他サービス業）

市場全体の景気後退（その他サービス業）
新型コロナウイルスの影響がひどい（その他サービス業）

【来期：好転の理由】

受注増・売上増加の見通し（鉄工・機械）
客先からの内示受注状況による（鉄工・機械）
主要客先の生産量によるもの(一時的)（鉄工・機械）
在庫の底打ち感が出たため、来期は持ち直す見込み（鉄工・機械）
コロナの反動（鉄工・機械）
生産計画の増加（鉄工・機械）
コロナの影響減少（その他製造）
若干ではあるが、底を打った気配がある（その他製造）
県外小売り流通の多少の改善によるが、前年大幅減額不採算（その他製造）
受注量やや増加（その他製造）
11月から予約が少し入ってきている（飲食業・宿泊）
展示会等で非常に当たりが良い（その他サービス業）

【来期：不変の理由】

建機の生産量が戻らない（鉄工・機械）
受注が右肩上がりになる要素が少ない（鉄工・機械）
中国が少し回復して来ているのと国内も少しずつ活動すると思う（鉄工・機械）
好転する見通しもあるが、不透明すぎる為不変とした（鉄工・機械）
受注高に大きな変動（鉄工・機械）
主力の観光バス受注量減少が続く（鉄工・機械）
コマツ増産の見通しで多少は増加するが、大きくは変わらない（鉄工・機械）
前期同様、業界自体が静か（鉄工・機械）
生産量に変化なし（鉄工・機械）
10月以降はトヨタ等一部自動車産業が回復しつつあり、それに伴って産業全般に若干改善の兆しが見えてきた（繊維）
大きな環境改善は難しいと思われる（繊維）
コロナ次第（繊維）
受注先の業況回復傾向がつかめない（その他製造）
少しずつ良くなる事を期待しているが、余り期待はできないと思う（その他製造）
アパート向けユニットバスの需要は微減傾向にあるが、コロナの影響は少ない（その他製造）
コロナ禍により、大幅な受注減（その他製造）
繁忙期のため（建設業）
今年度については目途がついている（建設業）
受注状況の不透明感が強い（建設業）
今後、民間工事の発注が読めない（建設業）
来期についても大きく変わらないのではないと思われる（建設業）
新型コロナウイルスによる直接的な影響は、現時点でそこまで重大ではないと感じられるため (建設業)
受注は、余り変っていないが、受注額が少し下がっている（建設業）
民間事業の減少（建設業）
民間は低調だが、公共事業に期待（建設業）
採算性が低いと思われるため（建設業）

年末に向け状況は変わらないと考える（小売業）
祭などイベント中止により、売上増加の要素がみられない為（小売・卸売業）
更に落ち込むことはないと判断するが、回復感はない（卸売業）
経済活動の雰囲気復活に期待（卸売業）
もっと回復して欲しいが、まだ厳しいと思われる（卸売業）
コロナ禍による市景低迷は以前続いている（運輸）
コロナウイルス感染症の収束が見通せないと予想されるため（運輸）
物流量の増加の見込みなし（運輸）
先行きの予想が困難（運輸）
新型コロナウイルスが落ち着いていない（飲食業・宿泊）
官公需が中心のため（その他サービス業）
コロナの影響（その他サービス業）
航空便の減便・運休状況が回復する見通しが立たない（その他サービス業）
変わる理由が見当たらない（その他サービス業）

【来期：悪化の理由】

客先の受注・生産減のため（鉄工・機械）
客先の仕事量の減少（鉄工・機械）
含みながら持ち直し、第3四半期はシーズンオフの為とコロナの影響で悪化方向（繊維）
今期先取りしているため、消費が進むまで減少（繊維）
今の状況から考えると、好転するとは考え難い。自粛ムードのため（その他製造）
コロナ禍の影響が見通せない（その他製造）
新幹線関連工事の収束による（建設業）
今後が推測できない（建設業）
設備投資の見直しによる受注減（建設業）
各企業の設備投資の減少（建設業）
消費の冷え込みは当分続くと感じている（建設業）
ここまで落ちたら、簡単に上がるとは思えない（建設業）
社会環境の変化による（建設業）
業界全体が悪い感じがする（小売業）
新型コロナウイルスの影響がまだ続くだろう（小売業）
需要の停滞（小売業）
コロナ禍の影響（卸売業）
予定が少ない（運輸）
今後、好材料が感じられない（運輸）
来期も今期と同様で改善される見通しが無い為（飲食・宿泊）
関与先の廃業等が予想される（その他サービス業）
コロナの影響がどのようになるかの不安感がある（その他サービス業）
コロナウイルスの影響によるもの（その他サービス業）
市場の投資計画が発生しない（その他サービス業）

(1)-2 DI値

(単位:DI)

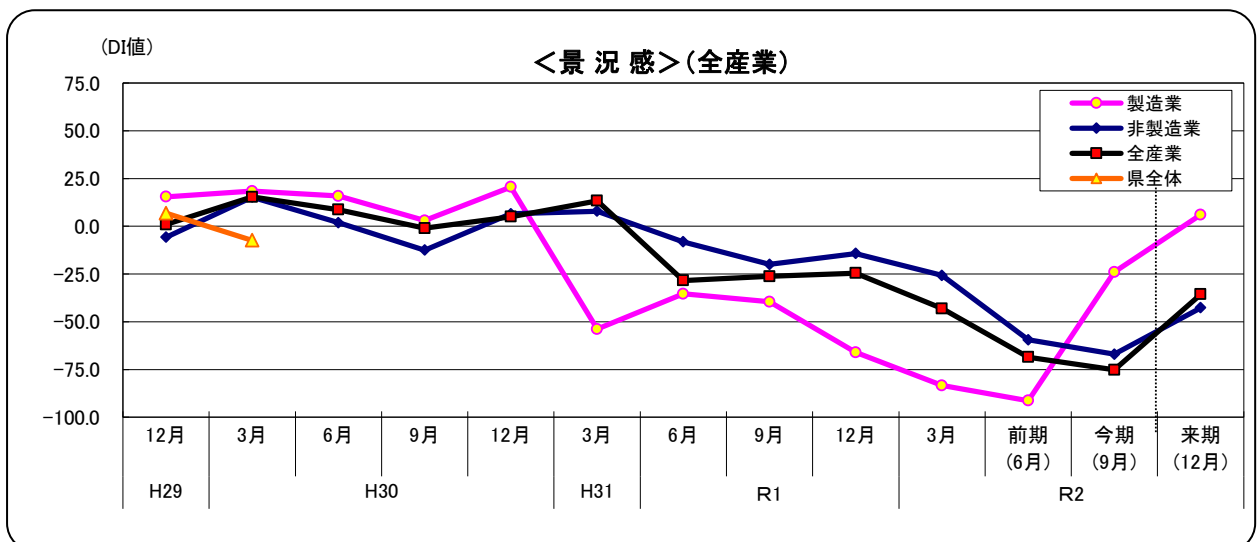
		前期	今期	来期
製造業	鉄工・機械	▲ 86.4	▲ 37.5	20.8
	繊維	▲ 100.0	▲ 10.0	▲ 30.0
	その他製造	▲ 92.9	▲ 12.5	6.3
	製造計	▲ 91.3	▲ 24.0	6.0
非製造業	建設業	▲ 60.6	▲ 32.1	▲ 46.4
	小売業	▲ 71.4	▲ 71.4	▲ 71.4
	卸売業	▲ 63.6	▲ 55.6	▲ 44.4
	サービス業(運輸含む)	▲ 72.5	▲ 42.1	▲ 43.2
	非製造計	▲ 67.0	▲ 42.7	▲ 46.9
全 体		▲ 75.2	▲ 35.6	▲ 26.7
改善予測		31.5	8.9	—

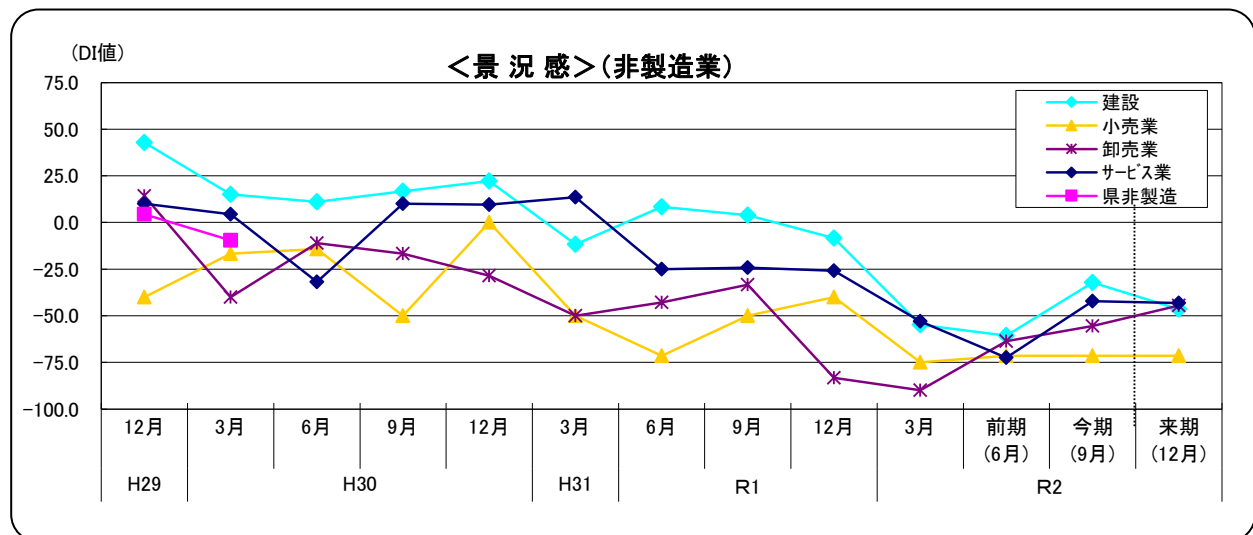
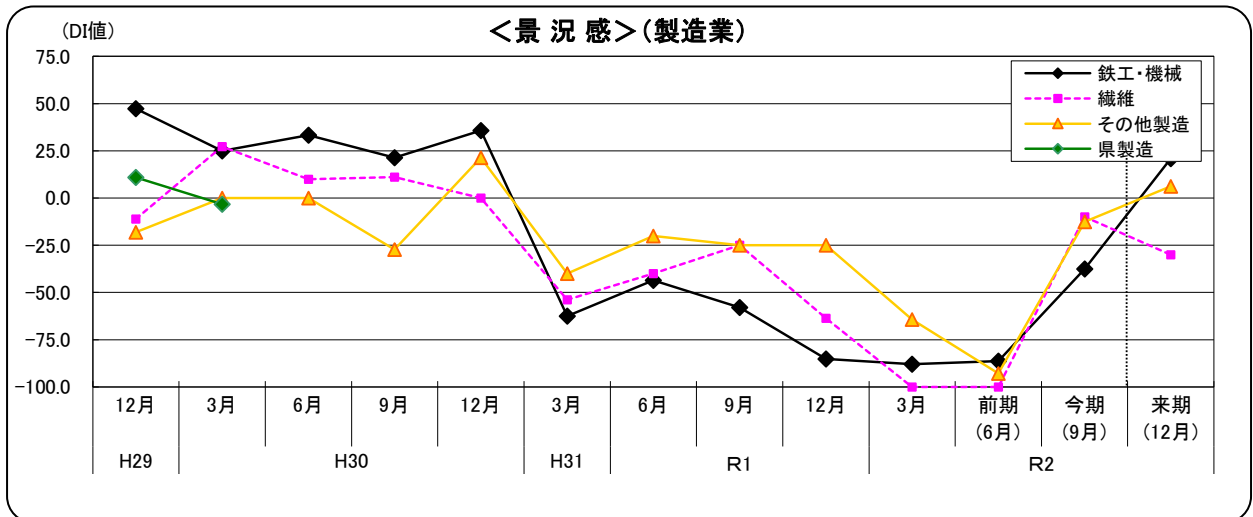
※改善予測（「来期」見通しから「今期」を差し引いた値、プラスの場合は今期より来期の方が上昇するという予測）

製造業については、鉄工・機械において前期 ▲ 86.4 ポイント、今期 ▲ 37.5 ポイント、来期 20.8 ポイントに、繊維において前期▲ 100.0 ポイント、今期▲ 10.0 ポイント、来期▲ 30.0 ポイント、その他製造において、前期 ▲ 92.9 ポイント、今期 ▲ 12.5 ポイント、来期 6.3 ポイントと、厳しい中にも底打ち感があり、一部で持ち直しの動きも見えた。

非製造業については、建設業において前期 ▲ 60.6 ポイント、今期 ▲ 32.1 ポイント、来期 ▲ 46.4 ポイント、小売において、前期、今期、来期共に ▲ 71.4 ポイント、卸売業において 前期 ▲ 63.6 ポイント、今期 ▲ 55.6 ポイント、来期▲ 44.4 ポイント、サービス業において 前期 ▲ 72.5 ポイント、今期 ▲ 42.1 ポイント、来期▲ 43.2 ポイントと、総じて厳しい状況が続き、来期以降も、コロナ禍の更なる影響など不安材料が多く、今後の見通しのつかない状況が伺える。

(1)-3 年代別の推移





(単位:DI)

区分	今期(R2.09)			来期(R2.12)			備考
	小松地区	北陸三県	全国	小松地区	北陸三県	全国	
製造業	▲ 24.0	▲ 47	▲ 37	↗ 6.0	↗ ▲ 38	↗ ▲ 31	50社
非製造業	▲ 42.7	▲ 29	▲ 21	↘ ▲ 46.9	↘ ▲ 30	↘ ▲ 24	83社
全体	▲ 35.6	▲ 37	▲ 28	↗ ▲ 26.7	↗ ▲ 34	↗ ▲ 27	133社

※北陸三県並びに全国の数値は 日銀金沢支店・短観(全国企業短期経済観測調査)より

(2) - (5) 売上高、売上単価、資金繰り、採算性(経常利益) DI一覧表

今期(令和2年度第2四半期)の状況

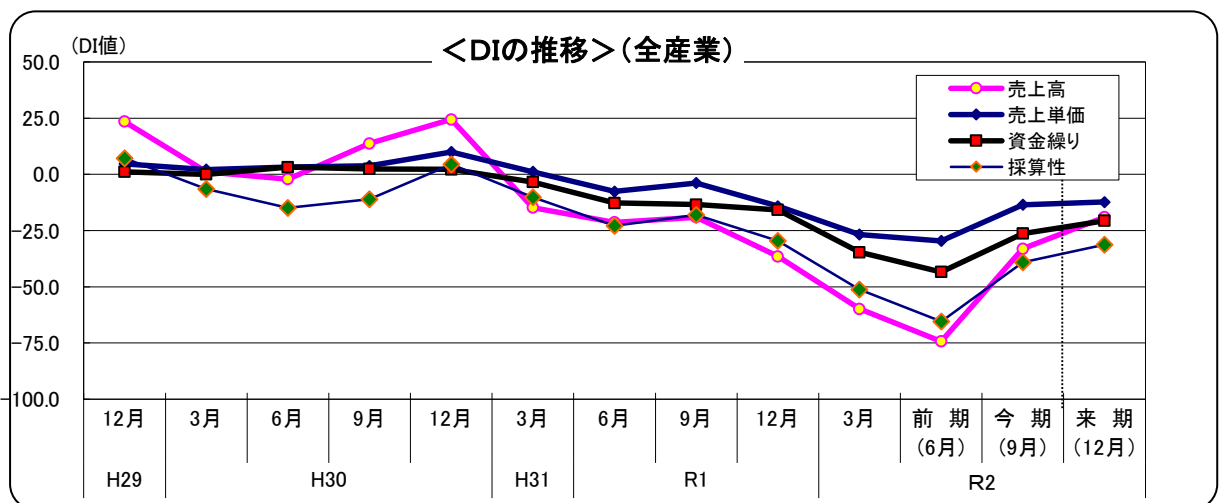
(単位:DI)

	売上高	売上単価	資金繰り	採算性
鉄工・機械	▲ 54.2	▲ 12.5	▲ 37.5	▲ 54.2
繊維	▲ 30.0	▲ 10.0	▲ 50.0	▲ 40.0
その他製造	▲ 6.3	▲ 6.3	▲ 18.8	▲ 12.5
建設業	▲ 20.7	▲ 13.8	▲ 3.4	▲ 20.7
小売業	▲ 71.4	▲ 28.6	▲ 42.9	▲ 71.4
卸売業	▲ 44.4	11.1	▲ 33.3	▲ 55.6
サービス業	▲ 31.6	▲ 21.1	▲ 28.9	▲ 44.7
全体	▲ 33.1	▲ 13.5	▲ 26.3	▲ 39.1

来期(令和2年度第3四半期)の見通

(単位:DI)

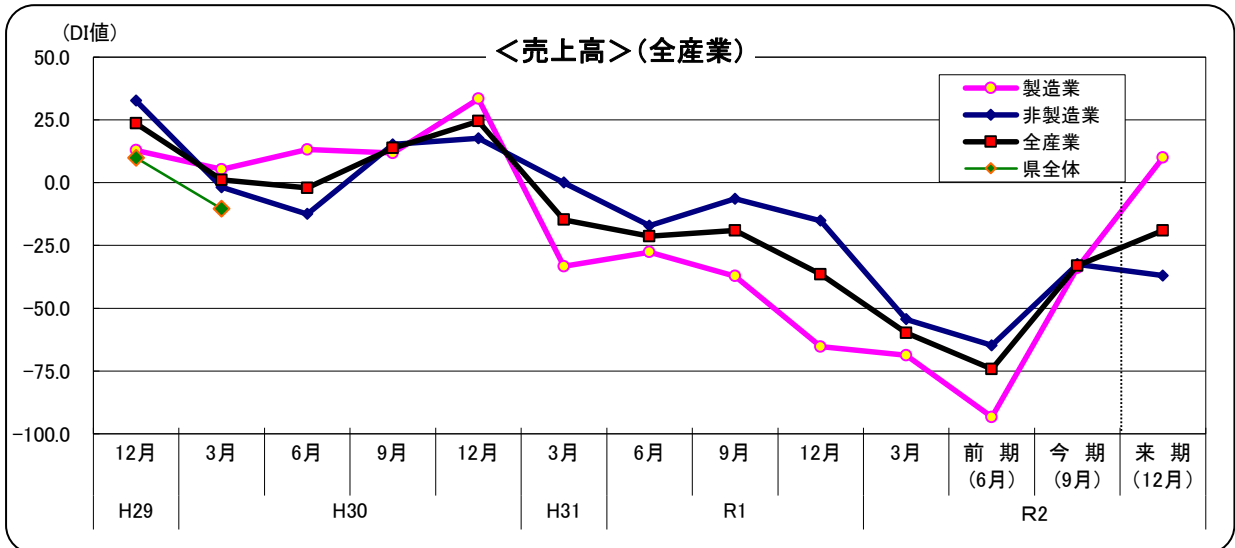
業種	売上高	売上単価	資金繰り	採算性
鉄工・機械	25.0	0.0	0.0	▲ 8.3
繊維	▲ 30.0	▲ 10.0	▲ 20.0	▲ 30.0
その他製造	12.5	▲ 25.0	▲ 37.5	▲ 18.8
建設業	▲ 35.7	▲ 17.9	▲ 3.6	▲ 35.7
小売業	▲ 71.4	▲ 42.9	▲ 42.9	▲ 71.4
卸売業	▲ 22.2	0.0	▲ 11.1	▲ 22.2
サービス業	▲ 35.1	▲ 8.3	▲ 37.8	▲ 43.2
全体	▲ 19.1	▲ 12.3	▲ 20.6	▲ 31.3
改善予測(今回)	14.0	1.2	5.7	7.8
改善予測(R02.6)	34.6	8.9	14.0	22.8
改善予測(R02.3)	▲ 1.6	▲ 7.8	▲ 8.7	▲ 7.1



(2) 売上高

(単位:DI)

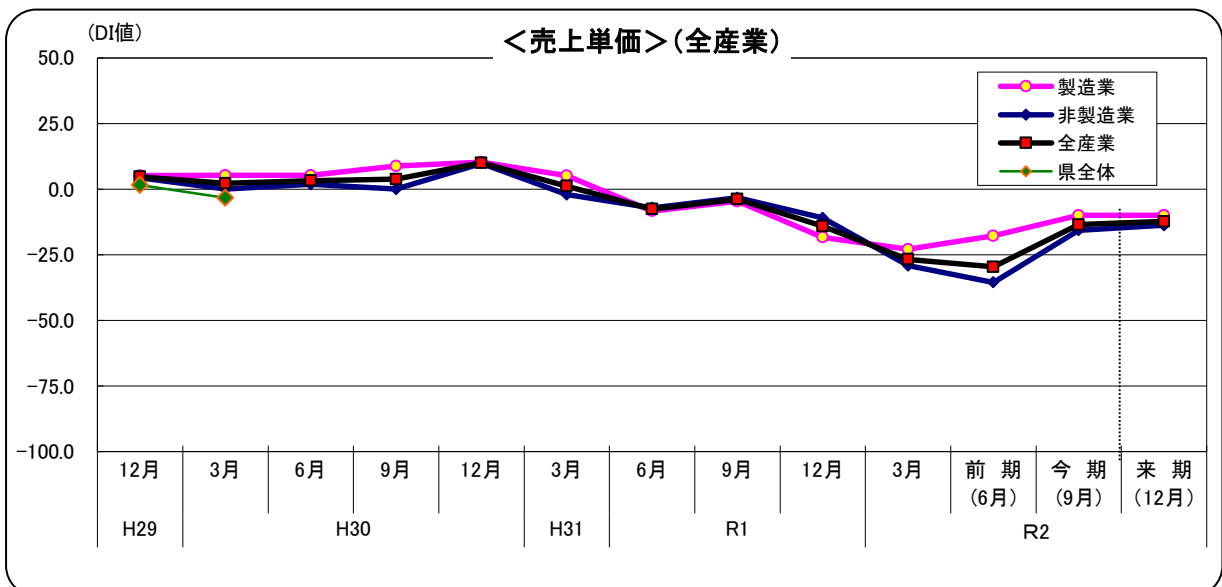
	製造業				非製造業					全産業
	鉄工・機械	繊維	その他	製造計	建設業	小売業	卸売業	サービス業	非製造計	
来期	25.0	▲ 30.0	12.5	10.0	▲ 35.7	▲ 71.4	▲ 22.2	▲ 35.1	▲ 37.0	▲ 19.1
今期	▲ 54.2	▲ 30.0	▲ 6.3	▲ 34.0	▲ 20.7	▲ 71.4	▲ 44.4	▲ 31.6	▲ 32.5	▲ 33.1
前期	▲ 90.9	▲ 100.0	▲ 92.3	▲ 93.3	▲ 57.6	▲ 85.7	▲ 63.6	▲ 67.5	▲ 64.8	▲ 74.3



(3) 売上単価

(単位:DI)

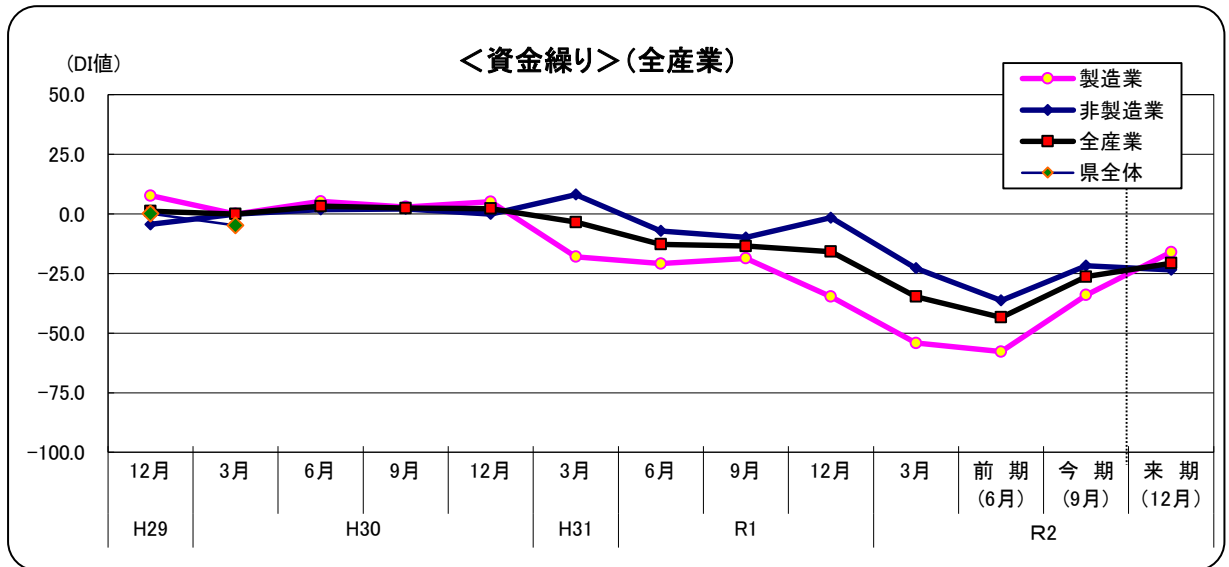
	製造業				非製造業					全産業
	鉄工・機械	繊維	その他	製造計	建設業	小売業	卸売業	サービス業	非製造計	
来期	0.0	▲ 10.0	▲ 25.0	▲ 10.0	▲ 17.9	▲ 42.9	0.0	▲ 8.3	▲ 13.8	▲ 12.3
今期	▲ 12.5	▲ 10.0	▲ 6.3	▲ 10.0	▲ 13.8	▲ 28.6	11.1	▲ 21.1	▲ 15.7	▲ 13.5
前期	▲ 13.6	▲ 30.0	▲ 15.4	▲ 17.8	▲ 30.3	▲ 50.0	▲ 18.2	▲ 42.5	▲ 35.6	▲ 29.6



(4) 資金繰り

(単位: DI)

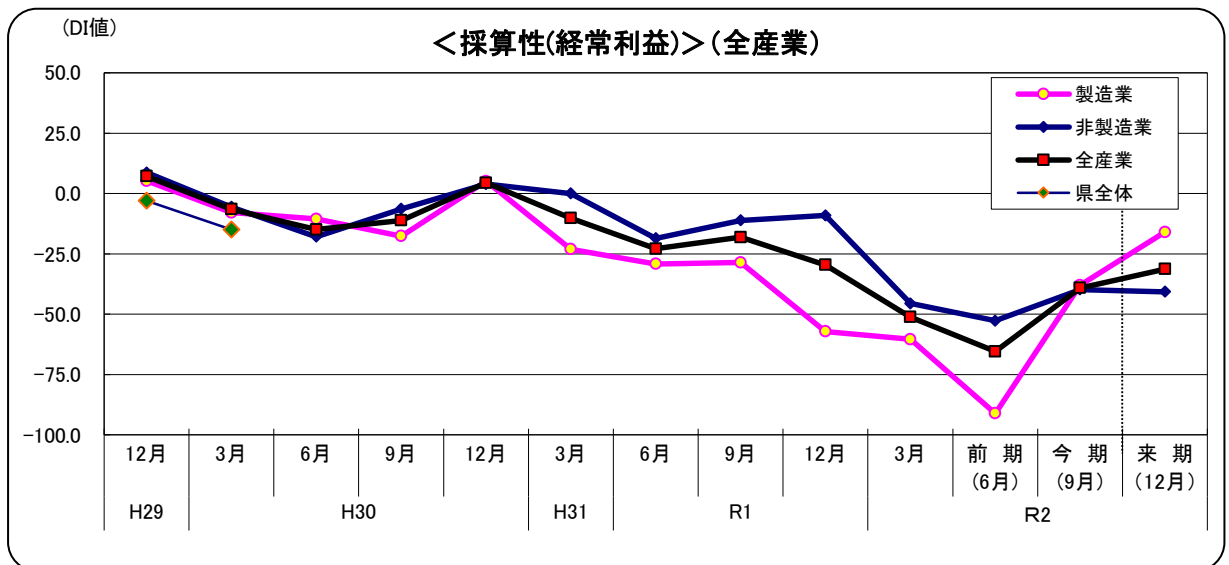
	製造業				非製造業					全産業
	鉄工・機械	繊維	その他	製造計	建設業	小売業	卸売業	サービス業	非製造計	
来期	0.0	▲ 20.0	▲ 37.5	▲ 16.0	▲ 3.6	▲ 42.9	▲ 11.1	▲ 37.8	▲ 23.5	▲ 20.6
今期	▲ 37.5	▲ 50.0	▲ 18.8	▲ 34.0	▲ 3.4	▲ 42.9	▲ 33.3	▲ 28.9	▲ 21.7	▲ 26.3
前期	▲ 63.6	▲ 80.0	▲ 30.8	▲ 57.8	▲ 21.2	▲ 42.9	▲ 36.4	▲ 47.5	▲ 36.3	▲ 43.4



(5) 採算性(経常利益)

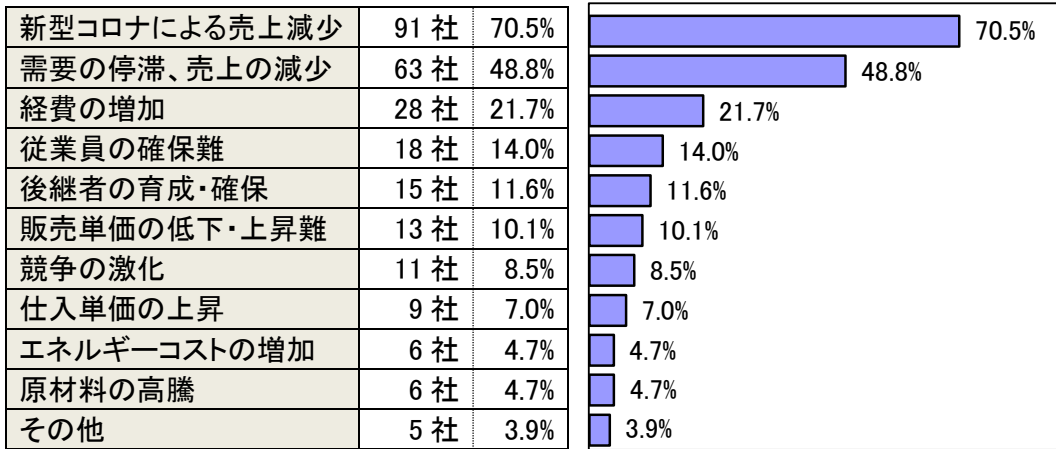
(単位: DI)

	製造業				非製造業					全産業
	鉄工・機械	繊維	その他	製造計	建設業	小売業	卸売業	サービス業	非製造計	
来期	▲ 8.3	▲ 30.0	▲ 18.8	▲ 16.0	▲ 35.7	▲ 71.4	▲ 22.2	▲ 43.2	▲ 40.7	▲ 31.3
今期	▲ 54.2	▲ 40.0	▲ 12.5	▲ 38.0	▲ 20.7	▲ 71.4	▲ 55.6	▲ 44.7	▲ 39.8	▲ 39.1
前期	▲ 86.4	▲ 100.0	▲ 92.3	▲ 91.1	▲ 42.4	▲ 28.6	▲ 72.7	▲ 60.0	▲ 52.7	▲ 65.4



今期(第2四半期)直面している経営上の問題点(複数回答可)

(n=129)



	鉄工・機械 (n=23)	繊維 (n=10)	その他製造 (n=16)	建設業 (n=28)	小売業 (n=7)	卸売業 (n=9)	サービス業 (n=36)
新型コロナによる売上減少	69.6%	90.0%	81.3%	42.9%	71.4%	77.8%	59.2%
需要の停滞、売上の減少	56.5%	60.0%	25.0%	57.1%	57.1%	55.6%	30.6%
経費の増加	26.1%	10.0%	12.5%	28.6%	42.9%	33.3%	10.2%
従業員の確保難	8.7%	0.0%	6.3%	32.1%	14.3%	11.1%	8.2%
後継者の育成・確保	4.3%	20.0%	6.3%	25.0%	0.0%	0.0%	8.2%
販売単価の低下・上昇難	13.0%	10.0%	12.5%	3.6%	14.3%	0.0%	10.2%
競争の激化	8.7%	0.0%	0.0%	14.3%	28.6%	0.0%	6.1%
仕入単価の上昇	0.0%	0.0%	6.3%	10.7%	14.3%	22.2%	4.1%
エネルギーコストの増加	0.0%	30.0%	0.0%	3.6%	14.3%	0.0%	2.0%
原材料の高騰	0.0%	0.0%	12.5%	7.1%	0.0%	22.2%	0.0%
その他	0.0%	10.0%	0.0%	3.6%	0.0%	0.0%	6.1%

Q「経営上の問題点」の項目における「10. その他」の意見

新しい加工場移行による品質 (繊維)
材料の納期遅れ (建設業)
関与先との状況により売上の減少が発生する (その他サービス業)
特になし










Q具体的な問題点や対応策

県外への営業活動強化、変動費の抑制 (鉄工・機械)
受注量が減っているのに、短納期や少量発注が増え、経費が増加している (鉄工・機械)
対応策は今のところなし。研修・教育に時間を使っている (鉄工・機械)
改善提案 (鉄工・機械)
他分野への得意先開拓をしている (鉄工・機械)
下請機業場支援で貸した債権 1500 万円が不動産で取得することに。時期をみて転売する予定。債権 100%回収予定 (繊維)
入らないので出さない。貰えるものはすべて貰う (繊維)
とにかく需要の増加が必要 (繊維)

給与面の優遇と、コロナ対策での業務不安の解消に努める（その他製造）
打ち合わせのスリム化（その他製造）
競合他社があるなか、価格改定に簡単に着手出来ない（その他製造）
原価低減の実践が問題（その他製造）
コロナによる売上減少は元に戻るとは考え難いので新しい手を打っていく必要あり（その他製造）
状況から販売単価低下は認めざるをえない（その他製造）
前期の緊急事態宣言で、アパートの建築が減り、当期の売上減少に繋がっている（その他製造）
民間建築工事の受注減少（建設業）
後継について（建設業）
営業活動(従来通りのリアル訪問)が制限される中で新たな営業活動を模索中（卸売業）
設備投資など、需要の落ち込み（建設業）
各企業の設備投資の減少（建設業）
こんな時期なのに働き方改革や安全面での法規が予定通り行われていることが問題（建設業）
材料の納期遅れが考えられるため、早め早めの仮発注や発注（建設業）
取扱商品を増やす。教室開催にて集客（小売業）
石川県の新分野チャレンジ事業を利用し、売上確保のため新規事業に取り組んでいる（小売業）
休業の助成金頼み。12月になれば人員整理も要検討（運輸）
収入が無い中、資金繰りをどうしていくのか（運輸）
新型コロナウイルスにより法人関係の売上が悪い。対応策は考えつかない(販促する雰囲気ではない)（飲食業）
コロナウイルスいつまで続くのか不安（飲食業・宿泊）
経費を削減し、資金調達を行い、経営環境が好転するのを待つ（飲食業・宿泊）
コロナ対策費の増加（その他サービス業）
高齢経営者の廃業が起きる可能性あり（その他サービス業）
サービスレベルを上げるしかない（その他サービス業）
設備投資計画が市場にない（その他サービス業）
あまり無理しないこと、又今までの経験を生かす（その他サービス業）

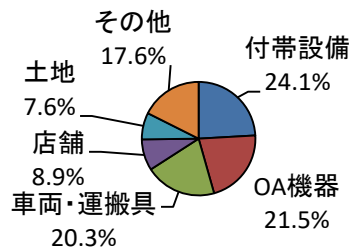
設備投資の動向

(1)今年度前半(令和2年4月～令和2年9月の6ヶ月)に設備投資を

	実施した		<業種ごとの実施した会社の比率>	
鉄工・機械	11社	45.8%		45.8%
繊維	4社	40.0%		40.0%
その他製造	8社	50.0%		50.0%
製造業	23社	46.0%		46.0%
建設業	14社	48.3%		48.3%
小売業	3社	42.9%		42.9%
卸売業	5社	55.6%		55.6%
サービス業(運輸含む)	17社	44.7%		44.7%
全体	62社	46.6%		46.6%

Q. 設備投資(今年度前半／内容)

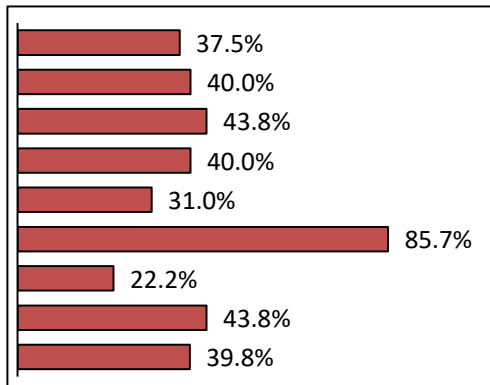
付帯設備	24.1%
OA 機器	21.5%
車両・運搬具	20.3%
店舗	8.9%
土地	7.6%
その他	17.6%



(2) 今年度後半(令和2年10月～令和3年3月の6ヶ月)に設備投資を

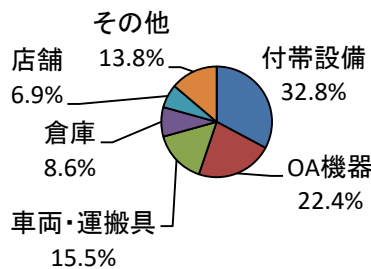
	計画している	
鉄工・機械	9社	37.5%
繊維	4社	40.0%
その他製造	7社	43.8%
製造業	20社	40.0%
建設業	9社	31.0%
小売業	6社	85.7%
卸売業	2社	22.2%
サービス業(運輸含む)	16社	43.8%
全体	53社	39.8%

<業種ごとの実施した会社の比率>



Q. 設備投資(今年度後半／内容)

付帯設備	32.8%
OA 機器	22.4%
車両・運搬具	15.5%
倉庫	8.6%
店舗	6.9%
その他	13.8%



	実施した	計画している
H29.3	52.8%	54.2%
H29.9	56.8%	45.0%
H30.3	55.4%	54.3%
H30.9	51.9%	45.7%
H31.3	53.4%	54.5%
R01.9	58.5%	49.1%
R02.9	46.6%	39.8%

「実施した」46.6%と過半数を切り、「計画している」も 39.8%と低く、下方修正や延期している企業もあり、中々厳しいといえる

その中で、昨年秋の調査時、小売りの設備投資は、実施・予定共に 0%だったのが、今期 42.9%、来期 85.7%の見通しと高いものとなっている。

